

事業所名 グループホーム町屋
運 営 推 進 会 議 開 催 報 告 書

開催日時 2023年 2月 27日 (月)	
参 加 者 (照会依頼含む)	議 題
利用者 0名	① 行事報告
利用者家族 0名	② 行事予定
地域住民の代表者 0名	③ 身体拘束適正化検討委員会
市職員 1名	④ 質疑応答
地域包括支援センター職員 1名	
事業所 2名	
会 議 録	
<p>2023年2月27日に行う予定でしたが、コロナウィルス感染拡大防止により開催を中止しました。今回開催分も照会依頼にて参加予定者から意見の聞き取りをしました。</p> <p>①行事報告</p> <p>◆1号館</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1月27日 昼食時におせち料理を提供し、皆様、美味しそうに食事をお召し上がり頂きました。 ・2月2日 恵方巻作りをしました。昼食時に各利用者様が作った恵方巻をととても美味しそうにお召し上がり頂きました。おやつ前には、無病息災の豆まきを行いました。 ・2月5日 誕生日会をおやつ時に行い、皆様でお祝いをさせて頂きました。 <p>◆2号館</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1月1日 昼食時におせち料理を提供し、皆様、美味しそうに食事をお召し上がり頂きました。 ・1月28日 誕生日会をおやつ時に行いました。誕生日の方も話をととても楽しそうにされお過ごし頂きました。 	

・2月2日 恵方巻作りをしました。昼食時に各利用者様が作った恵方巻をととても美味しそうにお召し上がり頂きました。おやつ前には、無病息災の豆まきを行いました。

・2月24日 2名の方の誕生日会をおやつ時に行い、皆様でお祝いをさせて頂きました。

②行事予定

◆1号館・2号館

- ・3月 ひなまつり
- ・4月 花見

③身体拘束適正化検討委員会

◆食事を拒否する人から考えられる身体拘束について

- ・食事を食べられない原因として体調不良時もありますが、認知症の症状の進行により食事の拒否、食べる事を忘れてしまう。また、嚥下機能の低下で飲み込みが出来なくなり食べられないなどもあります。

では、食事が食べられない時にどのような身体拘束が起こりえるのかを考えてみました。

1. 無理に食べさせてしまう…無理に食べさせる事をすると誤嚥するリスクが高く肺炎を起こす事も考えられます。無理に食べさせるという事は、食事を食べる事を楽しむ観点から考えると高齢者の尊厳の保持に反すると思います。
2. 怒ってしまう…食べ物と認識せずに食事を食べられない事があります。その様な時に「食べて!!」と職員の口調が強くなる事はスピーチロックに当たると思います。
3. 食事の量を減らしたりする…食べないからといって、食事の量を減らして準備する、おかずを一品減らすなど、特別な事情もなく職員の判断で行う事はネグレクトに当たるのではないのでしょうか。

また、食事を食べない、進まない時に身体拘束を行わずケアをするやり方は以下のような事が考えられます。

1. 食事時間をずらす…1日3食を決まった時間に食べて生活のリズムを整える事も大切ですが食べ物と認識していない時、傾眠が強い時など、食事時間の30分前後を目途にずらす事で食べられる事もあります。

2. 食事形態の見直し…嚥下機能の低下などにより、現在の食事形態が飲み込みづらくなっていないかなども検討することも大切だと思います。町屋では個々の嚥下状態に合わせて提供出来る様に取り組んでいます。食事形態は、通常食、刻み食、ミキサー食、ムース食まで対応しています。必要に応じて、とろみ剤をあんかけ状にして飲み込みやすくもしています。これからも、美味しく食事が食べて頂ける様に提供出来たらと思います。

3. 声掛けの工夫…食べないからといって、強い口調にならず声のトーンや言い方を柔らかくする事も大切だと思います。また、過剰な声掛けは利用者様のストレスにもなると思います。職員も間を空ける、対応する職員を変えるなどの工夫や取り組みをしていきたいです。

◆まとめ…今回は食事を食べられない事から起こりえる身体拘束をテーマにしました。食事を食べられない状態が続くと身体に様々な問題が起こります。食事が余り普段から進まない利用者様には例えば出来るだけ身体を動かす機会を作り、食欲増進を図る。食事形態や食器を食べやすいように工夫する。机の高さや、食器が取りやすい位置にあるか、座っている姿勢に問題はないかなど、食事前に出来る事を考え身体拘束を行わないケアに取り組んでいきたいです。

④質疑応答

市職員様…食事を食べない、進まない時の身体拘束を行わずケアをする方法について、お一人おひとりの状態に合わせたきめ細やかなケアを行う内容が検討されていて、とても良い取り組みだと思います。また、既に行われていますが、恵方巻作りのように利用者の方と一緒に食事を作ったり、調理前の食材や調理の工程を利用者の方に見て頂く事も、より食事に興味が沸く方法の一つかと思います。(身体拘束適正化委員会について)

・ご意見ありがとうございます。食を楽しむ一つとして食事作りに参加す

る事は良いのではないかと考えています。それに合わせ、手作業は認知症の進行の予防になるのではないかと思います。食事形態は、嚥下機能の状態に合わせ、個別に対応をしています。食事形態は、普通食、刻み食、ミキサー食、ムース食が対応可能です。食事形態を個々の利用者様の嚥下状態に合わせる事で、美味しく安全にこれからも食事を召し上がって頂けたらと思います。

地域包括様…特に意見はありません。今後とも宜しくお願いします。

• ご意見ありがとうございます。こちらこそよろしくお願い致します。